

## 特別企画 城東高校グローバルリーダ養成塾 アフガニスタン大統領補佐官と高校生が本気で語る！



12月15日(木)に福岡工業大学 FITLink において、アフガニスタン大統領補佐官モハメド・カヨウミ氏と城東高校生との英語によるトークセッションが行われました。この日を楽しみにしていた城東高校生からは沢山の質問が寄せられました。「夢を叶えるにはどうすれば良いのか？」や、「英語の習得方法について」等様々な質問に、カヨウミ氏はそのひとつひとつに、丁寧に笑顔で答えてくださいました。「日本がアフガニスタンに何ができるのか？」という質問には、「日本はこれまで JICA を通じて 500 名以上のアフガニスタンの学生を受け入れてきました。彼らは、アフガニスタン帰国後に工業や農業の分野の開発に貢献しています。アフガニスタンにとって必要なのは、国を支える人材育成です。これからも日本より支援を得ながらアフガニスタンの復興に繋げていきたいと思えます。」との答えが返されていました。

また、アフガニスタン出身のノーベル平和賞受賞者であるマララさんのようにするにはどうすれば良いかとの質問に対し、「彼女と面会した時、非常に聡明で広い視野を持っていました。自分の信じた事を貫くことで、あなたも彼女のようになれるし、あるいはそれ以上にだってなれます。」と回答がありました。

後半ではカヨウミ氏と一緒に来日したカリフォルニア州立大学イーストベイ校のリチャード・シェラット理事、アリゾナ州立大学のレイモンド・アンダーソン副学長も加わり、大変活発なトークセッションとなりました。「起業家になるためにはどうすれば良いか」との質問に起業家でもあるシェラット氏は「ビジネスを始める時、収益よりも、どうすれば世界の課題を解決できるのかを第一に考えます。収益は課題がより良い方向へ改善された時についてくるでしょう。」と話してくれました。コミュニケーション能力を養うにはどうしたら良いかとの質問に、アンダーソン氏は「練習を重ねる事。同級生だけではなく、違う学年の生徒や先生、近所の方々など様々なレベルの人とコミュニケーションを図ってみてください。必ずコミュニケーション力はついてきます。」とコメントされました。カヨウミ氏からは「私が小さい頃、祖母が『口はひとつしかないが、耳は2つある。それは、自分ばかりが話すのではなく周囲の声をたくさん聞くためよ。』と教えてくれた」と話してくれました。予定時間を超えた熱いトークセッションでしたが、城東高校生には非常に刺激的で、貴重な体験となったようです。

